

⑨七尾氷見道路の開通イベントから1周年記念事業までの取組

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所
国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

<評価>

七尾氷見道路の全線開通による交流時代の幕開けにあたり「みんなの思いをつなぐたすきりレー」をキャッチフレーズに、石川県・富山県が県境を越えて連携し、一体感のある取組みを実施した。リレー参加団体は、独自にホームページやSNSを用いて期待の声や整備効果を発信している。これが開通1周年記念事業「能越道交流会議」の開催につながり、両県がお互いの魅力を認識し、さらなる広がりが図られる点が評価された。



七尾氷見道路開通イベント

能越道交流会議

はじめに

能越自動車道は、三大都市圏と能登半島地域の交流促進等を目的とした高規格幹線道路である。その一部を構成する七尾氷見道路は、石川県七尾市と富山県氷見市を結ぶ延長約28kmの区間であり、平成27年2月28日に全線開通したことで、石川・富山両県の新たな交流時代の幕が開けた。

事業の概要・成果

七尾氷見道路の開通に向け、能越自動車道建設促進期成同盟会が、七尾氷見道路全線開通のPR、石川・富山地域の活性化に向けた連携強化及び整備効果発信を目的に「みんなの思いをつなぐたすきりレー」（以下、「たすきりレー」という）を実施し、国土交通省も支援した。その結果、「たすきりレー」は開通式典と相まって石川・富山両県の垣根を越えた一体感のあるイベントになった。

開通イベント以降も、たすきりレー参加団体が独自にホームページやSNSを用いて期待の声や整備効果を発信した。また、七尾市と氷見市の温泉組合女性会が連携・協力をはじめ、両地域を巡るツアーのパンフレットを作ると

いう新たな交流も生まれた。さらに、国土交通省により、「たすきりレー」参加団体向けに「ぐるっとつなぐたすき通信」と題して、メーリングリストにより開通後の利用状況などの情報共有を図ってきた。そうした複数の取組みが実を結び、地元七尾・氷見の両商工会議所間で交流事業がスタートし、七尾氷見道路の全線開通1周年の平成28年2月28日には記念イベント「能越道交流会議」が開催され、参加者が能越道の存在や整備効果を知る良い機会となった。

おわりに

七尾氷見道路全線開通をきっかけに生まれた「たすきりレー」や「能越道交流会議」参加団体との関係性を今後も継続し、交流を促進していくことで、地域自らが能越道を如何に活用していくか、さらには、能登半島地域を如何に活性化させるかを考える場へと発展させ、能登半島全域のさらなる活性化へと繋げていきたい。

⑩緊急輸送道路における亜炭鉱廃坑の路面陥没対策

受賞機関 岐阜県 県土整備部 道路維持課
岐阜県 可茂土木事務所

<評価>

道路の大規模な陥没被害を引き起こす恐れのある亜炭鉱廃坑空間を、ボーリング孔から線的に充填する工事で、全国初の取組みである。空洞対策として面的に行うのではなく、県道に合わせた線的な対策で得られる物理的探査等の知見は、今後も引き続き行われる工事に資するものとして評価された。

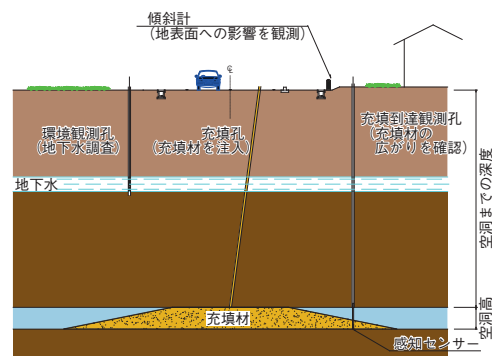
はじめに

県内には、中濃地方から東濃地方にかけて亜炭田が分布し、戦中から戦後にかけて国策として盛んに採掘が行われた。しかし、亜炭鉱を廃坑するあたり、採掘坑の埋戻し等の措置が適切になされてこなかったことから、近年、亜炭廃坑に起因する陥没被害が頻発していることが懸案となっていた。

近い将来、南海トラフ地震等が発生した際には、亜炭鉱廃坑の崩壊により、道路等の大規模な陥没被害などが起きる可能性があるため、大規模災害発生時に救急搬送や物資輸送などに必要となる緊急輸送道路ネットワークでの亜炭鉱廃坑に起因する路面陥没対策事業に着手した。

事業の概要・成果

地下空洞の充填工事は、路面からボーリング機械により地下空洞まで穴を削孔し、その穴から粘土やセメント等を配合した充填材を注入し空洞を埋める工法を採用した。幅約8mの県道下を線的に充填した取組みは、全国初の工事手法である。工事実施のための体制として、岐阜大学教授や御嵩町、業界団体が構成される「亜炭鉱廃坑による路面



充填工事のイメージ図

陥没対策検討会」を設置し、現地における調査実施方法や工事の進め方等を検討、審議しながら進め、空洞把握に係る調査手法や対策工事を行うための施工方法、品質管理方法、環境調査手法などさまざまな手法を確立し、工事を進めた。

おわりに

県内には他地域にも亜炭鉱廃坑が存在しており、対策事業として始まったばかりである。今回工事は、今後の対策事業を円滑に実施するための道しるべとして大変功績の大きい工事であった。

賛助会員 (株)栗山組、飛鳥建設(株)